

新エネルギー産業推進室の取組について

北部地区再生可能エネルギー工業団地の整備について

- 新たな産業活動による雇用の創出と地域経済の活性化を図るためのため、市内北部に再生可能エネルギー100%供給を目指す工業団地を整備することとしている。
- 令和7年度に基本計画を策定済。令和8年度から、工業団地整備に向けた測量・地質調査業務や設計業務を実施。
- 国が創設した「GX戦略地域」へ応募したところであり、今年4月に「有望地域」の指定を受けた。
- 現在、二次審査中であり、計画のブラッシュアップを経て、今夏に最終結果が公表される予定。

工業団地の整備の進捗

今年度の事業内容

昨年度策定した「北部地区再生可能エネルギー工業団地整備基本計画」に基づき、土地造成に必要な調査測量設計業務を実施。

測量業務 : 株式会社眞宮技術
地質調査・解析業務 : 中央開発株式会社
基本設計・実施設計業務 : 国際航業株式会社

今後のスケジュール

令和 8年度 測量業務、地質調査・解析業務、基本設計業務
令和 9年度 詳細設計業務および保安林等の補償調査業務
令和10年度 造成工事開始
令和12年度 分譲開始

・工業団地の分譲面積として約25haを確保することを目指す。
・同工業団地には、データセンターや再エネ電力を必要とする製造業、通信・情報サービス業、運輸業などの立地を想定。

GX戦略地域の指定に向けた取組

今年度の事業内容

- ・本年2月に県との共同申請により、本制度へ応募した。
- ・その一次審査の結果が本年4月に公表され、県および市が本制度の「有望地域」の指定を受けた。
- ・現在、第二次審査中。今夏には最終結果が公表される予定。

```
graph LR; A[公募  
一次審査] -- "4月24日  
一次審査通過" --> B[事業計画の洗練  
最終審査]; B -- "夏頃  
最終結果公表" --> C[必要な支援  
の実施];
```

The flowchart illustrates the process for designating a GX Strategy Area. It begins with a blue arrow labeled '公募 一次審査' (Public Solicitation / First Review). A red star marks the transition to a yellow arrow labeled '事業計画の洗練 最終審査' (Refinement of Business Plan / Final Review). Above this transition is the text '4月24日 一次審査通過' (April 24, First Review Passed). Another red star marks the transition to a final blue arrow labeled '必要な支援の実施' (Implementation of Necessary Support). Above this transition is the text '夏頃 最終結果公表' (Summer, Final Results Announcement).

- ・本地域の指定により、市団地内に立地する企業が実施する設備投資に対し、国からの補助金の獲得が期待される
- ・当室としては、これを呼び水とし、データセンター等のGX関連企業の誘致を推進していきたいと考えている。
- ・引き続き、本地域の指定に向け、県と連携しながら取り組みを推進していく。

洋上風力発電事業を契機とした地域活性化について

- 「男鹿市、潟上市及び秋田市沖洋上風力発電事業」は、一般海域では国内最速となる令和10(2028)年6月の運転開始を予定。
- 建設工事の本格化に伴う、視察需要の拡大が見込まれることから、観光素材として活用し、地域活性化を図る。
- SPCの一員である「伊藤忠商事(株)」の子会社である「(株)ファミリーマート」と地域活性化に向けた協定を締結した。

モニターツアーの開催

- 「男鹿市、潟上市及び秋田市沖」での洋上風力発電事業による地域内での経済効果の最大化を目的に、男鹿市、潟上市、秋田市と3市の商工団体で構成する協議会を組織している。
- 今年度の取組として、産業ツーリズムによる交流人口の拡大や3市経済の活性化のため、企業向けモニターツアーを実施するもの。

【取組概要】

- ①開催時期: 9月～11月(一泊二日を想定)
- ②行程案 : 秋田港のほか、3市の関連施設を周遊するもの



【基地港湾(秋田港)の様子】
(出典:男鹿・潟上・秋田OffshoreGreen Energy合同会社)

(株)ファミリーマートとの包括連携協定の締結



6月3日
包括連携協定締結式を開催
(写真左から)
・菅原男鹿市長
・沼谷秋田市長
・(株)ファミリーマート
北日本地域代表 松平氏
・鈴木潟上市長

【連携内容】

- ①健康維持・増進、食育に関すること。
- ②観光情報・振興に関すること。
- ③地域防災・減災への協力に関すること。
- ④地域の安全・安心に関すること。
- ⑤こども・青少年育成に関すること。
- ⑥高齢者・障がい者支援に関すること。
- ⑦環境対策・リサイクルに関すること。
- ⑧市産品・特産品・オリジナル商品の開発・販売に関すること。
- ⑨職員の福利厚生・職場環境の充実に関すること。
- ⑩その他、住民サービスの向上・地域社会の活性化に関すること。

洋上風力発電関連企業(海外)へのトップセールスの実施について①

【オランダ王国(7月7日～8日)】

- 本市への進出に関してMOUを締結(昨年10月)している「ファイバーマックス社」を訪問し、新たに一步踏み込んだMOUの締結を行ったもの。
- 港湾整備や洋上風力発電を起点とした地域経済活性化の知見を得るため、洋上風力発電の組立拠点港である、エームスハーフェン港を視察したもの。

ファイバーマックス社とのMOU締結

- 同社は合成繊維ケーブルの技術で世界をリードする企業であり、将来的に浮体式洋上風力発電の係留ロープへの活用が有望視されている。
- 本市への進出をより具体的に検討するための事項について、同社、本市、県、ウェンティ・ジャパン社など6社において**MOUを締結**したもの。



【MOUの概要】

- ①ファイバーマックス社(以下、同社)の本市への日本国内製造拠点の設置に向け、関係機関がどのように協業できるかを検討すること。
- ②同社は「合成繊維ケーブルの活用促進に向けた研究会」を通じ、関係者と技術的調査を進めること。
- ③県および市は同社が行う技術的調査を支援し、必要とする現地情報を積極的に提供すること。
- ④同社製品の国内製造にあたり、必要となる部材等の現地調達や地域活用について、関係者が共同で取り組む機会を持つこと。

エームスハーフェン港の視察

- 同港は風力発電設備組立のハブとなっており、これまで24箇所の発電施設に計1,577基(11.9GW相当)を供給してきた。
- 1973年に港湾整備が実施され、以降、エネルギーポートとして水素事業など、様々な事業を推進している。
- 港湾用地として約2,800haの面積を擁し、また5,000tを持ち上げるクレーンや4つの岸壁を有する。
- 岸壁は-7.5m～14m、地耐力40t、30t、20tがそれぞれ整備され、同時に部材の搬出が可能であり、複数の案件に対応できる。
- 港内には、RWEやシーメンス、ベスタスなど世界的な風力関連企業の事務所が所在するほか、風車内の電気ケーブルを製造する工場など、200社の企業が集積している。



【エームスハーフェン港内の様子】

洋上風力発電関連企業(海外)へのトップセールスの実施について②

【デンマーク王国(7月9日～10日)】

- 日本国内にナセル製造工場の設置を検討している世界最大の風車メーカー「ベスタス社」を訪問し、工場の本市誘致に向けたセールスを実施するとともに、同社のナセル製造のマザー工場等を視察し、関係者との意見交換を行った。
- 港湾整備や洋上風力発電を規定とした地域経済活性化の知見を得るため、世界最大級の洋上風力組立拠点港である「エスビアウ港」などを視察した。

ベスタス社への訪問

- 同社は我が国での一定規模以上の案件形成を前提に、2039年度までに国内でナセルの全ての製造工程を行う工場の設置を検討している。
- 鈴木知事と沼谷市長から本県・本市が北海道～新潟県までの日本海側洋上風力発電事業の地理的な中心地点に位置することや、整備された港湾を有すること、さらに、人材供給に向けた複数の高等教育機関を有するという強みをPRした。
- 同社は、部材の製造工場として全長225mの工場建屋を有しており、ハブ(ナセルとブレードを接続する部材)とナセルの製造を実施している。



エスビアウ港視察と管理事業者とのMOU締結合意

- 同港は北海の洋上風力発電事業を支える世界屈指の設備の組立拠点港であり、港内には「ベスタス社」「シーメンス社」などの複数の風車メーカーが集積するなど、巨大な洋上風力発電の「ハブ」となっており、4～5エリアの洋上風力発電事業の設置に同時に対応可能。
- 同港を管理する公営企業「ポートエスビアウ社(出資は全額エスビアウ市)」との意見交換を実施し、同社と秋田県、本市、秋田風作戦の4者でMOUを締結し、情報交換や交流を深めていくことで合意した。



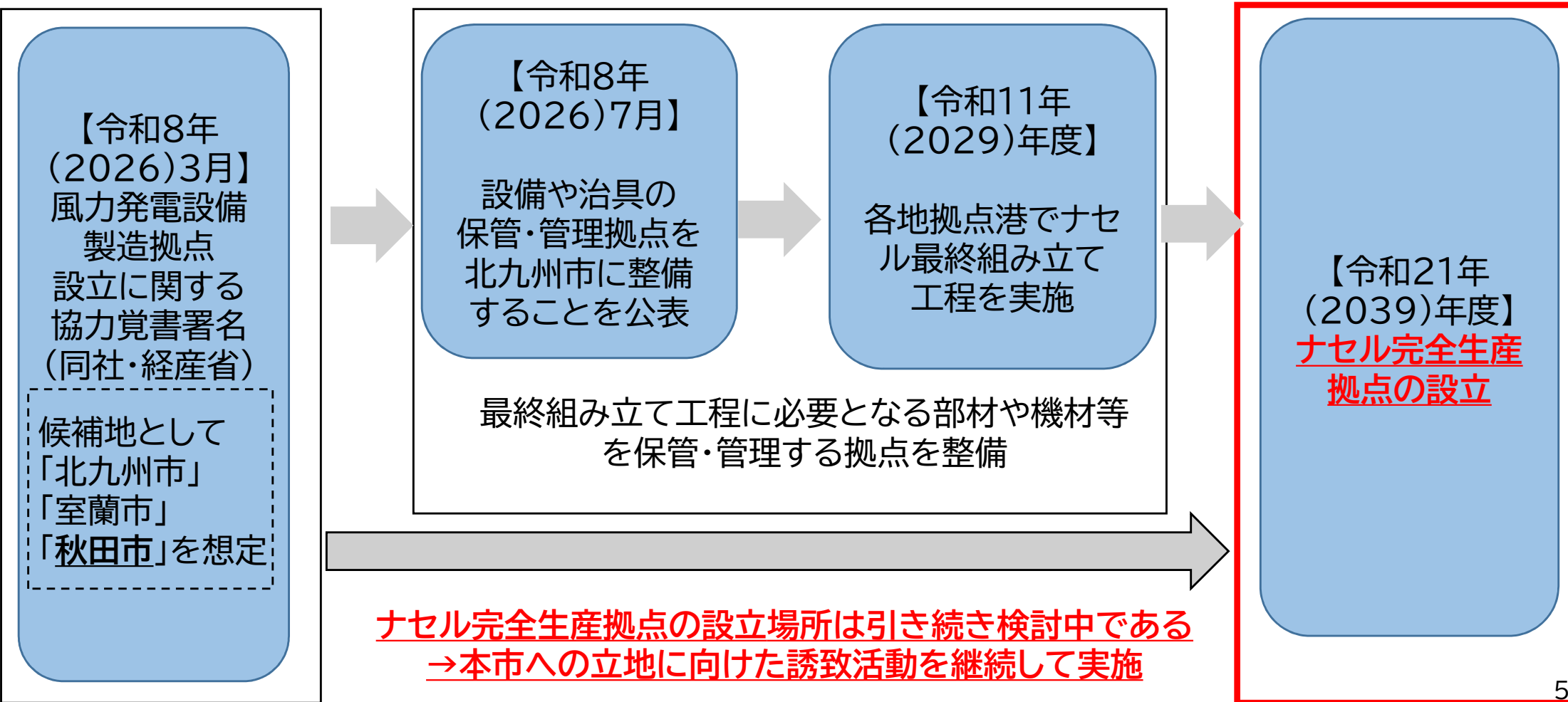
【MOUの概要】

同社が持つノウハウや知見を共有し、今後の港湾のあり方や整備方針、求められる港湾機能など、有用な情報の蓄積を図ること等を目的とするもの。

※同社とのMOU締結が実現した場合、日本国内では初、アジアでは釜山に次いで2例目。

(参考)ベスタス社のナセル完全生産拠点の設置に向けた状況

- 日本における洋上風力市場の拡大を前提とし、ベスタス社は、令和21(2039)年度までに国内にナセル完全生産拠点を設立することを今年3月に公表した。
- その第1段階として、今年7月、海外で実施しているナセル最終組み立て工程を日本国内に移管する計画を公表した。
- 具体的には、ナセル最終組み立て工程は各地の拠点港で実施されるものであり、その際に必要となる機材や治具などを保管・管理する拠点を北九州市内に整備することを公表したものの。



再生可能エネルギー関連の人材育成事業について

- 若者の関連産業への就職と地元定着を促進するため、大学生を対象とする「AKITA GX CAREER CAMP 2026」(旧:あきた新エネルギーカレッジ)および高校生・教員を対象とする「あきたREハイスクールEXPO」を開催している。
- 今年度も両イベントの実施を予定しているが、より内容を充実させ、参加者の増加を図るもの。

「AKITA GX CAREER CAMP 2026」の開催

今年度の事業内容

- ・開催日:8月25日(火)～27日(木)
- ・内 容:秋田港洋上風力発電所の見学のほか、国内初2,500tクローラクレーンが設置された秋田港の見学、さらに同事業初の取組として現役社員との座談会を企画



- ・従来の内容では「再エネ＝理系」とのイメージが強かったため、文系学生の参加が乏しかった
- ・内容に新鮮味が無くリピーターの獲得が難しかった。



- ✓ 学生の「キャリア形成」という観点を取り入れ、文系学生にも参加しやすい設計とした
- ✓ 新たな見学先・講座を取り入れるなど、講義の充実を図った。

「(仮称)あきたREハイスクールEXPO」の開催

今年度の事業内容

- ・開催日:11月～2月の平日(1～2日間開催予定)
- ・会 場:秋田市中心市街
- ・内 容
 - ① 再生可能エネルギー関連企業による講演・プレゼンテーション
 - ② 再生可能エネルギー関連企業によるブース出展

今後の予定

- ・8月中旬 プロポーザル方式により受託事業者を決定・契約
- ・8月以降 受託事業者と連携し、出展企業・参加高校との調整、会場・プログラムの具体化
- ・令和8年度中 イベント開催



- ✓ 基本的な流れは昨年度の内容を踏襲するが、学校側や企業側との調整を昨年より早い段階で実施していく。
- ✓ 生徒が参加しやすくなるよう、本イベントに参加する生徒が「公欠」扱いとなるよう学校側と調整。